

代表質問

12月定例会では、8つの会派が代表質問を行いました。代表質問を行った会派の名称、発言順及び発言時間は次のとおりです。

無所属の会（132分）、公明党（166分）、緑風会第1（98分）、創生市川（166分）、緑風会第2（81分）、自由民主党（98分）、日本共産党（115分）、市民の声を届ける会（81分）

※QRコードから代表質問の動画をYouTubeにてご覧いただけます。

自由民主党

中山 幸紀

〔総括質問者〕

細田 伸一

つかこしたかのり

かいづ 勉

市民の健康と食

問 知人等の中で、土の力を活用した自然農法による栄養価の高い「生命力を持つている食材」を食すること、体調が大きく改善された者がいる。そこで、市は、配食サービスの案内等の中で、このような体に良い食材の情報を市民に提供することはできないか。

答 自然農法等による野菜など体に良い食材に徹底的に拘ったものを食すること。

境界問題

問 江戸川放水路と旧江戸川の分岐点付近から下新宿

の北側までの、いわゆる「河原番外地」と呼ばれる区域については、いまだに江戸川区と本市との境界が定まっていらない状況にある。そこで、境界問題の解決には時間を要するとは思われるものの、本市として今後どのように取り組むつもりか。

答 現在までのところ、本件の境界問題は解決の糸口が見出せない状況にあるが、江戸川区とは、花火大会を毎年共催するなど良好な関係を築いており、また、これまでも誠実に協議を重ねてきたという経緯があるため、協議による解決が第一であると考えている。今後、話し合いの場を設けるなど、しっかりと意思の疎通を図ると共に、新たな資料の探索にも取り組んでいきたい。

市民の声を届ける会

〔総括質問者〕

かつまた竜大

中町 けい

つちや正順

中核市への移行

問 市長は先の9月定例会において、新型コロナウイルス対策を含めた保健衛生行政の強化等のため、本市自前の保健所を設置する意義を強調し、その実現のため、

めに中核市へ移行する考えを表明した。そこで、自前の保健所を設置した際には、どのような「健康都市」政策の展開が考えられるのか。

答 保健所は、地域における公衆衛生の専門機関として重要な役割を担っているため、「健康都市」の取り組みについても大きな役割



中核市市長が課題等について議論する中核市サミット



江戸川区との境界が未確定な河原番外地（写真中央陸地先端部周辺）

日本共産党

清水みな子

金子 貞作

高坂 進

やなぎ美智子

〔総括質問者〕

廣田 徳子

インクルーシブ

遊具の設置

問 豊島区の「としまキッズパーク」には、車椅子に乗ったまま遊べる砂場や横転等の心配のない安全なブランコ等といったインクルーシブ遊具が整備されているとのことである。本市で整備を進める地域コミュニティゾーンにおいても、全ての子どもが楽しめる環境を整えるとのことだが、当該地域に公園を整備するに当たり、障がいのある無に問わず、誰もが遊べるインクルーシブ遊具を設置する考えはあるのか。

答 地域コミュニティゾーンは、地域の実情や特性等を踏まえ、子どもたちの健やかな成長と誰もが交流できる地域コミュニティ拠点の形成を図ることを目的として、公園等の整備を行うものである。地域コミュニティゾーン内には整備する公園については、障がいのある無に関わらず、誰もが楽しめる施設を整備することが大変重要であると認識していることから、そのような遊具を設置できるよう検討していきたいと考えている。

キャッシュレス

決済事業

問 本市では、コロナで落ち込んだ市民等の消費を喚起するため、令和2年12月末までを期間として、約20億円の予算を投じてキャッシュレス決済普及促進事業を行っている。本事業の利用者は、スーパーや大型店舗、コンビニでは多いが、

個人商店では利用者が少なく引き続き厳しい経営状況にある。そこで、本市におけるキャッシュレス決済の導入状況はどうなっているのか。また、本事業の現状について、市の認識を問う。

答 本市におけるキャッシュレス決済の導入店舗は、業種を問わず増えていることから、キャッシュレス決済の普及は一定程度進んでいると認識している。しかし、本事業については、キャッシュレス決済の利用者に対し令和2年10月末までに、約4億5千万円分のポイントを支給し、その予算の執行率は約23%に留まっていることから、年末に向けてしっかりと本事業の周知を行っていききたい。



インクルーシブ遊具で遊ぶ子ども